

I 研究主題

地域に学び、国富を知り、ふるさとに誇りをもてる子どもの育成
～ 小中一貫教育による総合的な学習の時間の指導を通して ～

II 主題設定の理由

人間関係の希薄化、少子高齢化等の社会の変化に伴い、児童生徒を取り巻く環境は急変してきた。学校単位の取組だけではなく、家庭や地域、関係機関との連携なくしては解決できない問題等も台頭してきている。小1プロブレムや中1ギャップといったものが例として挙げられるが、進学に不安を抱く児童生徒や保護者が増えるとともに、集団生活や交友関係をうまく築けない実態が見られるようになってきた。このような背景も一因となり、小中一貫教育による新たな学校形態がクローズアップされるようになった。県教委は平成19年度から「地域の特性を生かした多様な一貫教育研究事業」を進め、学力向上と生徒指導の充実をめざしている。国富町においても、この事業に参画し、町内における望ましい小中一貫教育の方向性を模索しつつ研究を深めてきているところである。

本年度当初には、町内の八代小、北俣小、深年小の統廃合が行われ、小学校4校、中学校3校となった。そのため、各小学校区と各中学校区がほぼ重なることになり、9年間を見通した小中一貫教育の充実に期待が高まっている状況である。特に、教育課程を連結しやすく、弾力的に運用できる総合的な学習の時間においては、取り扱う内容の重複や学ぶレベルの逆転現象などの具体的な課題を解決し、9年間の指導計画を早急に整備・充実させていくことが望まれている。また、児童生徒が人格形成を行う原体験の場となる地域の特性を生かし、自分自身と環境との関わりを確かめたり、自己の在り方や生き方を見つめたりするふるさと教育の充実という観点からも、この学習の時間を有効的に活用していく必要性が叫ばれている。

そこで本研究センターでは、昨年度からの2年計画で、総合的な学習の時間における9年間を見通した小中一貫教育『くにとみ学』の単元を創設し、授業を構築することにした。この『くにとみ学』のめざす児童生徒像は、「地域に学び、国富を知り、ふるさとに誇りをもてる子ども」である。ふるさと国富の自然・環境・歴史・伝統や文化、生活についてのよさを知り、大切に思う心を育み、自分のことばでふるさとの誇りを語り、未来について深く考え、将来、ふるさとに貢献できる児童生徒を育成することをめざす。そのために、単元目標および学習内容等に系統性・一貫性をもたせ、児童生徒が地域の自然・歴史や風土、人々の想いや願いに触れ、地域に愛着や誇りを抱く体験を積み重ねていくことを配慮しながら研究を深めることにした。

昨年度は『くにとみ学』の基本的な考え方、地域素材の洗出しと選定、中学校区ごとの全体計画の作成および指導体制の検討、そして大まかな単元構成といった理論的な研究の積み重ねがなされている。そこで、本年度は、児童生徒の実態や地域の特性をふまえた単元構成をもとに、再度、具体的な指導計画の検討を行い、授業実践を行うことにした。その実践を踏まえて『くにとみ学』のめざす児童生徒像により近づくための効果的な授業実践の在り方を検証していくことにする。

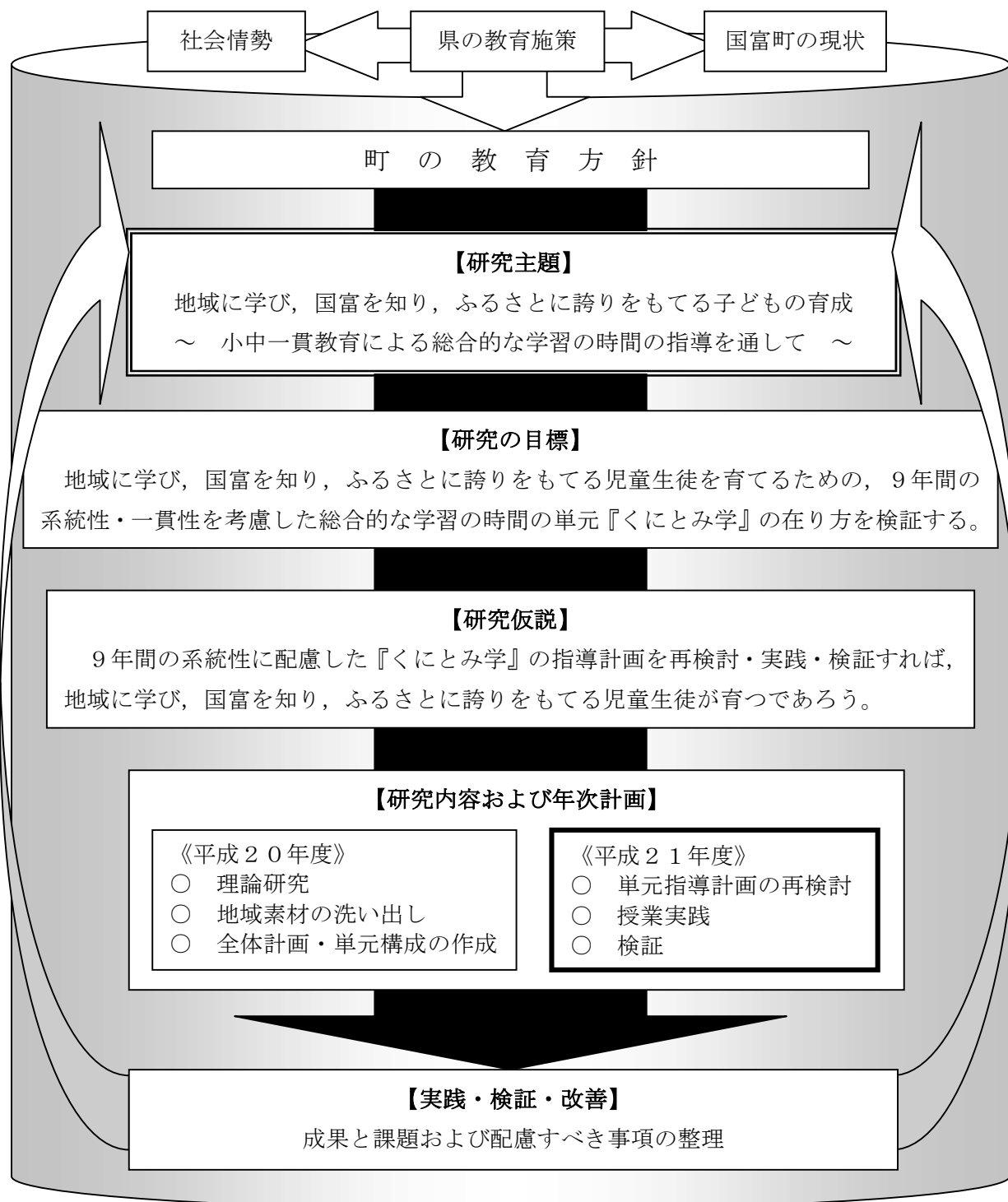
III 研究目標

地域に学び、国富を知り、ふるさとに誇りをもてる児童生徒を育てるための、9年間の系統性・一貫性を考慮した総合的な学習の時間の単元『くにとみ学』の在り方を検証する。

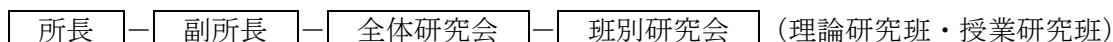
IV 研究仮説

9年間の系統性・一貫性に配慮した『くにとみ学』の単元指導計画を再検討・実践・検証していけば、地域に学び、国富を知り、ふるさとに誇りをもてる児童生徒を育てることができる授業を構築できるであろう。

V 研究構想



VI 研究組織



VII 研究内容

1 理論研究

ここでは、『くにとみ学』の目標と評価、指導計画の作成などに関して、実践を進めるにあたって必要とされる基本的な考え方をまとめる。

(1) 『くにとみ学』の目標

ア 『くにとみ学』の位置づけ

『くにとみ学』は、町内共通の取組を推し進めることで、より系統性・一貫性の高い教育活動を展開するために創設された。したがって、その目標も町内統一のものとなるが、これを単元として内包する「総合的な学習の時間」は、学校ごとに独自性を有する。そこで、指導計画の作成にあたっては、『くにとみ学』の目標達成が、各学校の「総合的な学習の時間」の目標達成につながるものとなるよう、特に留意しなければならない。

イ 目標の構成要素

『くにとみ学』としての一貫性を保つためには、指導計画の骨子となる要素を明らかにし、作成にあたっての基本的な考え方を共有しておく必要がある。昨年度設定した『くにとみ学』の目標は、「地域に学び、国富を知り、ふるさとに誇りをもてる子どもの育成」であるので、さらに具体的な内容領域などについても整理しておきたい。そこで、県教委から示された「地域学」の考え方を取り入れ、「内容領域」、「活動方法」、「ねらい」の3つを構成要素として、その詳細を考えた。

【くにとみ学の目標】		
「地域に学び、国富を知り、ふるさとに誇りをもてる子どもの育成」		
<u>国富町の自然・環境、歴史・伝統、産業・生活、またその未来と将来の自分について</u> ①		
<u>て、校種間交流など小中学校9年間を見通した系統性・一貫性のある指導計画に基づ</u> ②		
<u>いて探究的、体験的に学ばせる。また、五感を通してそのよさや人々の想いに直接</u> <u>れさせることで、地域と自分に対する自信と誇りを育み、自分の生き方について深く</u> ③		
① 内容領域 ② 活動方法 ③ ねらい		

ウ 各学年の目標

系統性・一貫性に配慮して設定した。これをもとに、各中学校区・各学校ごとに必要な配慮を加え、指導計画や評価の手立てを具体化する。なお、小1・小2については、各教科等において、これにつながるような教育活動を推し進めることとした。

	小3	小4	小5	小6
小学校	地域の自然や地域の様子について知り、地域の良さに気づき、得られた情報を積極的に表現する。	地域の歴史や伝統に関心を持ち、地域のよさについて整理し、生き生きと表現する。	地域の産業や生活などについて理解し、地域の方々の地域に対する思いや願いについてまとめ、表現する。	体験学習を通して、地域の産業、仕事や職業に関心を持ち、働くことの大切さ、喜び、苦勞を分かりやすく表現する。
	中1	中2	中3	
中学校	地域の産業・生活や地域の特色・課題を理解し、地域をさらによくするための自分の考えを工夫して表現する。	将来の仕事や職業への関心を持ち、勤勞の意義や働く人々のさまざまな思いを理解するとともに、自分の生き方について見つめ、整理し表現する。	地域に生きる人々との関わりを通して、地域と自分との関わりや自分の生き方について考え、創意工夫を加え効果的に表現する。	

(2) 『くにとみ学』の評価

ア 具体的評価の重要性

「総合的な学習の時間」の一単元である以上、「育てたい力や取り組む学習活動や内容を、子どもたちの実態に応じて明確に定め、どのような力が身に付いたかを適切に評価する」ことが必要だ。具体的な評価となるようその観点を明確にすることが求められる。

イ 評価の観点

評価の観点においても「地域学」の考え方を取り入れた。育てたい資質や能力を明確に示した「地域学」の評価の観点は、『くにとみ学』においても有効なものだと考えたからである。もちろん、「地域学」と『くにとみ学』には教育課程内の枠組みの違いがある。また、特区と本町の実施条件にも差がある。しかし、ふるさとに学ぶという点では共通の基盤に立つ取組であり、各学校の「総合的な学習の時間」との関係についても前述のように整理している。こういったことから、以下の4つを『くにとみ学』の評価の観点とした。

『くにとみ学』の評価の観点	
○ 地域や「生き方」に対する関心・意欲・態度	○ 地域や「生き方」についての知識・理解
○ 地域や「生き方」に関する思考・判断	○ 地域や「生き方」に関する情報活用の技能・表現

ウ 各学校・各学年における観点別目標と評価の観点

上記を踏まえ、以下のように設定した。本庄中学校第1学年の例を示す。

単元名	みつめよう地域	本庄中学校第1学年	
【総合的な学習の時間の目標】			
【くにとみ学の目標】		【かしの木タイムの目標】	
【くにとみ学の中学校第1学年目標】		【かしの木タイムの第1学年目標】	
【本単元の目標】			
<p>○ 国富町の農業に興味・関心をもち、主体的・協同的に取り組み、ふるさとの産業に対する誇りとそれに携わる人々への尊敬の念を高めて、よりよい生き方をめざすことができる。 (① 地域や「生き方」に対する関心・意欲・態度)</p> <p>○ 探求的な学習や体験学習を通して、問題解決のための手立てを身に付けながら、国富町の農業の特色と農産物の生産・流通の仕組みを知り、それに携わる人々の苦労を知り、その想いを理解することができる。 (② 地域や「生き方」についての知識・理解)</p> <p>○ 問題解決に向けた見通しを持ち、必要な情報を取捨選択しながら、国富町の農業が抱える課題について考え、ふるさとの未来に思いをはせて、自分が果たしていくべき役割やより良い生き方について考えることができる。 (③ 地域や「生き方」に関する思考・判断)</p> <p>○ 図書やインターネット、インタビューなどを活用しながら、必要な情報を収集・分析し、自分なりの方法で整理し、分かりやすくまとめて、校内だけでなく交流学習などにおいても創造的に発表表現をすることができる。 (④ 地域や「生き方」に関する情報活用の技能・表現)</p>			
【評価の観点】			
① 関心・意欲・態度	② 知識・理解	③ 思考・判断	④ 技能・表現
<p>(1) 国富町の農業に対する興味・関心をもつことができたか。</p> <p>(2) 探求的な学習や体験学習に主体的・協同的に取り組むことができたか。</p> <p>(3) ふるさとの産業に対する誇りとそれに携わる人々への尊敬の念を高めて、よりよい生き方をめざすことができたか。</p>	<p>(1) 探求的な学習や体験学習を通して、問題解決のための手立てを身に付けることができたか。</p> <p>(2) 国富町の農業の特色と農産物の生産・流通の仕組みについて知ることができたか。</p> <p>(3) 国富町の農業に携わる人々の苦労を知り、その想いを理解することができたか。</p>	<p>(1) 問題解決の見通しをもち、必要な情報を取捨選択することができたか。</p> <p>(2) 国富町の農業が抱える課題について考え、ふるさとの未来に思いをはせることができたか。</p> <p>(3) ふるさとに対して自分が果たしていくべき役割や、よりよい生き方について考えることができたか。</p>	<p>(1) さまざまな情報源を活用し、必要な情報を収集・分析することができたか。</p> <p>(2) 情報を自分なりの方法で整理し、分かりやすくまとめることができたか。</p> <p>(3) 掲示物の作成や発表会などを通じて、校内や交流活動などで創造的に表現することができたか。</p>

(3) 『くにとみ学』の指導計画

ア 作成上の留意点Ⅰ－重視事項

昨年度、『くにとみ学』のとらえ方として、重視事項を以下のようにまとめた。指導計画の作成にあたっては、まずこれらの点に留意する必要がある。

- ・総合的な学習の時間の目標達成につながるものであること
- ・各学年の目標、単元計画に沿い、一貫性・系統性の高い学習活動とすること
- ・探究的な学習活動を重視すること
- ・教科等との関連付けを重視し、総合的・横断的学習の要とすること
- ・キャリア教育の視点を重視すること
- ・一貫教育推進の手立てとして校種間交流を重視すること

イ 作成上の留意点Ⅰ－各学校・各中学校区の実情に応じた配慮

以下の点に配慮する必要がある。なお、校種間交流などに関わる学校間の調整は、町教務主任会及び町教育研究会の小中合同研究会において行うこととした。

- ・総合的な学習の時間の全体計画の中での『くにとみ学』の時数の取扱
- ・他の教育課程との関連付けに配慮した学習活動の内容やその実施時期
- ・地域素材の活用や施設・設備、交流活動における移動手段等の諸条件

ウ 各学校・各学年における観点別目標と評価の観点

前述の事柄を踏まえ、単元の指導計画を以下の形式とした。

〔国富町立本庄中学校第1学年の例〕								
月	日	時	段階	学習活動及び内容	指導上の留意点	教科等との関連 評価の観点 〔評価方法〕	地域 素材	
9	3	8	②	7 共通課題Ⅰに対する取組を振り返り、共通課題Ⅱを確認して学習計画を立てる。 【共通課題Ⅱ】 ☆ 農産物の生産と流通にはどのような苦労があるのだろうか？	<ul style="list-style-type: none"> ○ 作成した資料を用いながら、共通課題Ⅰに対する取組を振り返らせる。 ○ 農産物の生産と流通の仕組みについて概略を説明する。 ○ ワークシートを用いて調べ学習の流れを確認させる。 ○ 班単位で対象を割り振り、取材のヒントを与える。 ○ ワークシートを用い、取材活動のマナーや方法について指導する。 ○ 班内で分担を決めさせ、全員がインタビューにできるようにさせる。 ○ 人々の想いに対する感想をまとめさせ、班で発表し合わせることでより良い生き方について考えさせる。 ○ ワークシートを用いて総括させ、感想をまとめさせる。 ○ ピーマンの栽培と調理、取材活動で感じ取ったことなど体験で得たことを重視させる。 ○ 発表会の基本計画を示し、より分かりやすい発表にするための構想を練らせる。 	《社会科》 公民的分野 (2)ーア ○ 生産と流通、消費 《技術・家庭科》 技術分野 A-(6) ○ ピーマンの栽培 家庭分野 A-(2) ○ ピーマンの調理 《国語科・関連》 ☆ インタビュー ☆ お礼状 《食育・関連》 ☆ 生産者との会食 (12月)	①-(1) ①-(2) ②-(1) ③-(1)(2) [ワークシート] [班活動観察] ①-(3) ②-(2)(3) ③-(2)(3) ④-(1)(2) [ワークシート] [班活動観察]	農林振興課・J・A・生産者
				8 課題に対する仮説を立て、取材する内容について考える。 ・栽培の苦労は？ ・商品化の苦労は？など				
	10	10	②	9 生産と流通、農政に携わる人々に取材活動を行い、共通課題Ⅱについてまとめて、感想を述べ合う。				
	17	12	13	10 共通課題Ⅰ、Ⅱについての取組と社会科や技術・家庭科で学んだことを総括して、それぞれの感想をまとめる。 11 班内で感想を述べ合い、小中合同発表会に向けた発表の準備をする。				
《交流活動》								
系統表	小学校3年	小学校4年	小学校5年	小学校6年	中学校1年	中学校2年	中学校3年	
	ぼくらは森永・本庄探検隊	そのとき国富の歴史は動いた	目指せ米づくり名人	12才の自分さがし	みつめよう、地域	みつめよう、自分	みつめよう、未来	
《上学年・下学年とのつながり》								

2 実践研究

『くにとみ学』の指導計画作成上の留意点1に挙げた重視事項を視点に、いくつかの実践を紹介する。

(1) 探究的な学習活動の重視

総合的な学習の時間の中で中核を為す、「探究的な学習活動」は、『くにとみ学』においても、とりわけ重要である。それは、児童生徒が自ら課題意識を持ち、その意識が連続し、学習活動が発展していくことをねらいとしているからである。それにより、単に地域について調べて終わりではなく、学習によってもたらされた気づきや理解が、さらに深い探究心を呼び起こし、ふるさとを愛する心へとつながっていくと考えられる。そのことが、ひいては地域社会に貢献する人材の育成につながるであろう。

ア 探究的な活動を重視した指導事例（木脇中学校第2学年の実践より）

月	日	時	階	学習活動及び内容	指導上の留意点	教科等との関連	評価の観点 (評価方法)	地域 素材
12	3	17	出 会 う	1 自分の将来の夢や、希望について考える。	○ あくまで、現時点の夢や希望でよいことを伝える。	〈社会科〉	①— (2) ③— (1) ④— (1)	国富町の 各事業所
		18		2 国富には、どんな仕事や職業があるかを調べる。	○ 調べる方法には、インターネット、役場等に問い合わせるなどの方法があることを知らせる。		①— (3) ③— (3) ④— (2)	

イ 授業の実際

○ 自分の夢や将来について考える

中学2年生の現時点における夢や、希望について考えさせる。既に、自分の歩む道についてしっかりと考えている生徒もいるが、少数である。自分の適性、興味、長所などと、様々な職業の特性などを照らし合わせながら、自分が興味を引かれた職業についての調べ学習を行った。

○ 国富の職業・産業についての調べ学習

職場体験学習で依頼した事業所を中心に、地域の産業に従事しておられる方々にインタビューを行った。その職業に就いたきっかけ、その職業に求められるもの、やりがい、辛いと感じたことなど、職業人の生の声を聞いて、仕事に求められる心構え等を学んだ。それと同時に、国富の主な産業にはどんなものがあるかを調べていった。



ウ 成果と課題

職業について関心を持ち、調べ学習を行ったことで、進路意識が高まり、翌日に行われた高校説明会では、熱心にメモを取ったり、質問する姿も見られた。

ほぼ同時期に学活で行われた高校調べでは、調べ学習のスキルを生かし、手早く活動する姿が見られた。単に職業について調べるだけでなく、今後の活動の中で、地域に対して貢献していきたいという意欲にまでつなげさせたい。

(2) 教科等との関連付けの重視

各教科等の単元の中には、地域との連携が図りやすいものがある。特に社会や理科などはできるだけ地域に出向き、そこで身につけた知識や技能等を生活に生かすことが大切である。そのため、関連的な指導が可能な単元については、相乗効果が得られるように実施時期や指導方法などを調整することで、『くにとみ学』の目標の一つである「生涯にわたってふるさとを愛し、これに貢献できる児童生徒の育成」が図れるものと考えた。

ア 教科等との関連を重視した指導事例（森永小学校 第3学年の実践より）

月	日	時	段 階	学習活動及び内容	指導上の留意点	教科等との関連	評価の観点 〔評価方法〕	地域 素材
9	7	4	深	自分の課題を調べるために、本庄・森永の町を探検しよう	○町の建物や地形などの様子や主な公共施設の場所と働きを、観察・調査したり白地図にまとめたりして調べ、場所による様子の違いや特色を具体的に考えさせる。	<社会科> スーパーマーケットで働く人たち	①—(1)	地元のスーパー 地元農家
				② ・学校のまわりの様子 ・住んでいる地区の様子 ・地域の人の様子	○地域で働いている人の苦勞や工夫を考えさせる。			
5	5	5	自分の課題を整理しよう	○地図記号について取り上げる。	暮らしの工夫	②—(1)		
			・探検で見つけたことの整理 ・聞き取りや自分で集めた資料の整理	○調べたことを絵地図や平面地図に表して調べ、身近な地域のよさに気づかせる				

イ 授業の実際

○「スーパーマーケットではたらく人たち」 場所：地元のスーパー

実際にスライサーやラベルを貼る機械などを手にしたり、担当の方から説明を受けたりしながら学習を進めていった。生産地や無農薬を表示することで、安心・安全なイメージを買い手にもたせることや仕入れと売値の値段設定の工夫など、初めて知る内容に子どもたちも興味をもって聞いていた。



ウ 成果と課題

身近にいる人たちが、話をしてくれるので親しみをもって学習に取り組んでいる様子がみられた。また大根やきゅうりは、国産のものもあり、より郷土への誇りにつながったものと考えられる。さらに、普段から利用するスーパーを取り上げたことで、「学び」が継続して、その後の生活の中にも発展していった。今後は各学年単位で各教科等の関係をより明らかにし、工夫改善を重ねていく必要がある。

1 キャリア教育の視点の重視

キャリア教育とは、児童・生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために、必要とされる意欲や態度、能力を育てる教育である。「情報活用能力」を高めることや「将来設計能力」、「人間関係形成力」をはぐくむこと、また自分なりの課題を設定する「意思決定能力」を身に付けさせることなどが期待されている。そしてこれは、「くにとみ学」においても極めて重要な視点であると言える。

地域素材を取り入れた調べ学習や職業に関する体験学習などを通して、働くことに関する多様な視点をもたせていけば、自己の生き方についての考えも深まり、ふるさとを愛し、これに貢献する気概も高まるものと考えられる。

(1) キャリア教育を重視した指導事例

月	日	時	段階	学習活動および内容	指導上の留意点	教科等との関連	評価の観点	地域素材
6		1	深める	6 テーマを決めて活動計画を立てる。	○ 調べる内容や方法などを計画させ、取材などが必要な場合は協力してくださる場所へ依頼をさせる。 ○ 全員で体験できる場所（施設等）へ依頼しておく。	《国語科》 「依頼の手紙を書こう」	①- (1)	保護者・マザーハウス
7	9	7 計画に基づいて調べる。		○ 実際に働く方の生の声を聞く	《国語科》 「分かりやすく伝えよう」	①- (2)		
10	11	4		8 職業体験をする。	○ まとめかたや表現方法を工夫させ、分かりやすく伝える手立てを工夫させる。	①- (2) ③- (3)		
11	5	9 調べたことをわかりやすくまとめる。		○ 発表会を意識して、分かりやすくまとめさせる。	③- (1) ④- (2)			

(2) 授業の実際

<認知症施設マザーハウス訪問>

職業調べをしていく中で、実際に働く人の様子を見学し、生の声を聞いたり仕事を体験させていただいたりすることで「働く」ということを様々な視点から考えられると考えた。そこで本庄地区にある認知症施設に依頼し、事前に「認知症」や「介護士」について調べ、情報を集めたうえで施設訪問をし体験学習を行った。



<地域の方の講話>

本庄小 PTA 会長をゲストティーチャーに迎えて、働くということについて実体験をもとに講話をしていただいた。幼稚園園長と住職とを兼務していらっしゃる方で、働く意義や生きるということについて話していただき、意見交換会も行った。



(3) 成果と課題

事前の調べ学習により情報を得たうえで施設訪問を行ったことで、認知症という病気や介護士の仕事についてより深く理解したとともに、体験を通して高齢者との接し方など人間関係育成力を高めることができた。また、働いていらっしゃる介護士の方と実際に話をしたり、入居者の方の歩行介助や食事の準備を手伝わせていただいたりしたことで「働く」ことの苦勞と喜びを実感することができた。体験したままで終わらずに、体験したことをその後の自分の将来設計にどう結び付け、どう生かしていくのか指導方の確立が課題として考えられる。また、活用できる地域施設や人材の確保と連携が重要であり、リスト作りなどの整備が必要である。

(4) 校種間交流活動の重視

学習指導要領解説では、「総合的な学習の時間」の学習指導のポイントとして、他者と協同して取り組む学習活動にするように述べられている。

そこで『くにとみ学』では、他者をより意識した活動を心がけることで、自己の成長や課題を実感する場とするだけでなく、コミュニケーション能力の育成にも繋がると考え、校種間の交流活動を取り入れることとした。またこれによって、小学生が中学校へ進学する際の抵抗を少なくできると考える。

ア 校種間交流活動を重視した指導事例（八代小学校6年生と八代中学校1・3年生との実践より）

月	日	時	段階	学習活動及び内容	指導上の留意点	教科等との関連	評価の観点（評価方法）	地域素材
4	14 23 27	6	出会う	1 ボランティア活動について話し合い、いろいろなボランティアについて調べる。 ボランティアって何だろう？	○ 取り組んでいる方の考え等に気づかせる。 ○ パソコンによる調べ学習も考慮する。	道徳3-1 学級指導(1)	①-(1) ③-(1) ④-(1) (観察)	
5	19 27 28	6	深める	2 学校でできる活動を考え、実践する。 ・下級生のためにできる活動を考える。 ・継続して取り組むことができる内容を考えさせる。	○ 朝の時間に取り組む活動について内容等の計画を立てる。 ○ 活動のアイデアが出ないときには、低学年の朝のお世話等の具体的事例を示す。		①-(2) (観察) (ワークシート)	
9	4 9 14 18	7	広げる	4 交流活動に参加する。 ・分担を決める。 ・合同学習に向けて準備をする。 ・活動する。 5 活動についてまとめ、発表する。	○ 地域に働きかける意識を高めて取り組ませる。	道徳3-1	①-(1) (ワークシート) ②-(2) ③-(3) ④-(2) (まとめ)	

イ 授業の実際

本中学校区での、小・中学生合同での活動内容は、交通安全を呼びかける看板の制作、交通安全のお守りセット作り、川上神社の清掃に取り組んだ。

小学生の時に一緒に過した児童生徒が多いが、お互い環境が変わり交流活動が少なくなっていったため、以前のように接することができない児童がいた。しかし、時間が経過し中学生の気遣いもあって、しだいに打ち解けて活動することができるようになった。



ウ 成果と課題

小学生は、中学生のしっかりした活動の様子を間近に見ることができて、取組の意義を再確認することができた。

中学生は、小学生との活動を通して、自分の成長を感じることができた。

事前の計画を綿密に打ち合わせて、もっと一緒に活動する時間を設定するなど活動の幅を広げたい。

私はおまわり作りをしました。私は中学生のみなさんが私達に優しくお知恵くれて楽しくおまわりが作れました。中学生のみなさんがボランティアをすすんでしているので私はすごいと思います。私はボランティアという事をしようと思いましたが、たけど私は来年中学生のみなさんみたいにすすんでボランティアをする人になりたいです。

VIII 研究の成果と課題

1 成果

- これまでの総合的な学習の時間の課題を解決できる系統性・一貫性を重視した実践を展開することができた。
- 目標や指導計画の作成に関する基本的な考え方を共有し、それを基盤とした小中一貫教育による取組を実施することができた。
- 通常の教科の学習では、ともすれば知識の習得に偏重しがちだが、自分たちで設定したテーマに対して、自由に取り組みさせることで、国富町内で学べ、内発的な探究心を呼び起こすことができた。

2 課題

- 小学校と中学校の連携を図る際に、計画等の綿密な打ち合わせを行う時間の確保が必要である。
- 地域の方々や校種間での交流を図る上で、実践するのに必要な情報等をまとめた資料が必要である。
- 次年度以降、課題解決・改善等を生かすために組織的に取り組める機関・組織を作っていく必要がある。

【参考文献】

小学校学習指導要領（平成20年3月告示）	文 部 科 学 省
中学校学習指導要領（平成20年3月告示）	文 部 科 学 省
小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編	文 部 科 学 省
中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編	文 部 科 学 省
学習指導のための要領・解説 一地域学編一（平成19年度）	宮 崎 県 教 育 委 員 会
平成21年度串間市小中高一貫教育推進研究集録	串 間 市 教 育 委 員 会

【研究同人】

国富町教育研究センター職員・研究員一覧

所 長	豊 田 暎 光	国 富 町 教 育 長
副 所 長	中 森 久 人	国 富 町 教 育 総 務 課 長
指 導 員	遠 矢 良 幸	国 富 町 立 本 庄 小 学 校
研 究 員	児 玉 智 保	国 富 町 立 本 庄 小 学 校
研 究 員	肥 後 裕 二 郎	国 富 町 立 森 永 小 学 校
研 究 員	鶴 久 敬 介	国 富 町 立 八 代 小 学 校
研 究 員	梅 木 丈 裕	国 富 町 立 木 脇 小 学 校
研 究 員	村 山 利 彦	国 富 町 立 本 庄 中 学 校
研 究 員	神 部 優 美	国 富 町 立 八 代 中 学 校
研 究 員	増 岡 三 四 郎	国 富 町 立 木 脇 中 学 校